

新幹線プレス

2013年3月4日

No.101

発行者

成田隆浩

編集者

教宣部

JR東海労新幹線地本

業務委員会で組合の質問に答えない会社！

3月4日、新幹線地本は申18号「交番検査・仕業検査体制の見直しに関する追加申し入れ」に基づき業務員委員会を開催し、会社と協議しました。

地本は、提案された仕業検査体制の見直しは、業務量が変わらないのに仕業検査施行番線を変更しただけで要員体制を、4班体制から3班体制に変更することは「合理化であり認められない」と主張しました。また「会社は合理化と認識しているのか」と会社の合理化の認識を問い質しました。

会社は「この場で答えることはしない」と回答してきました。地本は「労使で合意している業務委員会を軽視する姿勢で認められない」「なぜ応えられないのか」と必要に迫りました。会社は明確な回答は避け「この場で応えることではない」「本社で応えるべきことだ」と本社に預けた形の回答をしてきました。

地本は業務委員会軽視の姿勢を許さず今後さらに会社を追及していきます。

8名減の明確な根拠を示せ！

会社は、明確で十分な要員削減の根拠を明らかにしていません。地本は、仕業検査の要員を8名削減とするとしているがどういう計算式で成り立つのかと質しました。回答は「3班になり一日当たりの要員、年間の休日付与などを考え8名削減とした」というものでした。地本は「年休20日完全取得できる要員配置か」「具体的な計算式を明らかに示せ」と質しましたが、会社は、明確な計算式を示ませんでした。会社は、明確な回答を示さず検修体制の見直しを実施しようとしています。地本は、会社の無責任な対応を許さない取り組みを進めていきます。

第一仕業・第二仕業の要員を明らかにせよ！

地本は、今後の第一仕業検査・第二仕業検査の要員を明らかにするよう迫りました。しかし「具体的な要員数は言えない」と回答しました。明確な要員数を明らかにしない全く無責任な姿勢です。地本は会社の姿勢を許すことはできません。

職場環境を改善しようといない姿勢は許さない！

設備の改善要求として第二検修庫の老朽化「床面グレイチングの凹凸直し」「300系の電源箱を速やかに撤去すること」「外勤室・待機室の空調設備の改善」などを求めました。回答は「現状で対応されたい」「必要な修繕は適宜実施している」というもので根本的な改善とはなっていません。また、職場の設備は「現状で十分である」と無責任な発言を行いました。このような会社の対応や認識は、労働災害を発生させる要因になり、安全で適切な検査はできません。

労働強化につながる検修体制の見直しに反対しよう！